

ピムコ・バミューダ・トラストⅡー

# PIMCO短期インカム・ファンド

米ドルー年2回分配クラス

豪ドルー年2回分配クラス

バミューダ籍ノオープン・エンド契約型外国投資信託

## 交付運用報告書

作成対象期間 第1期

(2024年12月17日～2025年10月31日)

### その他記載事項

運用報告書(全体版)は代行協会のウェブサイト(<https://www.sc.mufig.jp/products/trust/index.html>)(「外国投資信託運用報告書」)にて電磁的方法により提供しております。

ファンドの運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

管理会社

パシフィック・インベストメント・  
マネジメント・カンパニー・エルエルシー

代行協会員

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、ピムコ・バミューダ・トラストⅡーPIMCO短期インカム・ファンド(以下「ファンド」といいます。)は、このたび、第1期の決算を行いました。

ファンドの投資目的は、世界(新興国を含みます。以下同じ。)の幅広い種類の公社債等およびそれらの派生商品等を主要投資対象とし、慎重な投資運用と合致させながら魅力的な収益を追求することおよび二次的にキャピタルゲインの獲得を目指すことです。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

### 第1期末

クラス名	1口当たり 純資産価格	純資産総額
米ドルー年2回分配クラス	10.46米ドル	70.7百万米ドル
豪ドルー年2回分配クラス	10.42豪ドル	28.4百万豪ドル

### 第1期

クラス名	騰落率 (%)	1口当たり 分配金額
米ドルー年2回分配クラス	7.22	0.26米ドル
豪ドルー年2回分配クラス	6.82	0.26豪ドル

(注1) 騰落率は、税引前の分配金を分配時に再投資したものとみなして計算しています。以下同じです。

(注2) 米ドルー年2回分配クラスおよび豪ドルー年2回分配クラスは2024年12月17日から運用を開始しています。第1期末の騰落率は当初発行価格(米ドルー年2回分配クラス:10米ドル、豪ドルー年2回分配クラス:10豪ドル)を基準に算出しています。以下同じです。

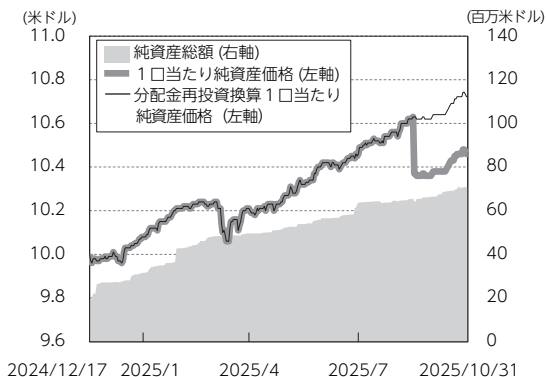
(注3) 1口当たり分配金合計額は、税引前の1口当たり分配金の合計額を記載しています。以下同じです。

## 《運用経過》

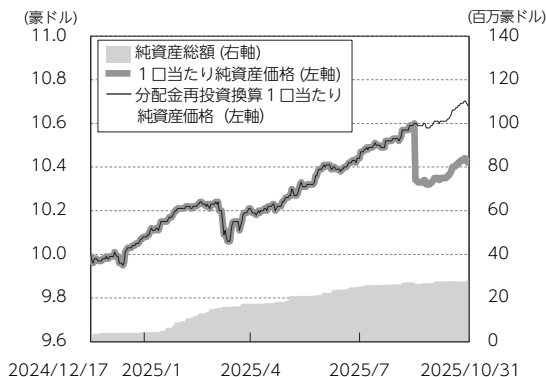
### 【当期の1口当たり純資産価格等の推移について】

- (注1) 米ドル一年2回分配クラスは、2024年12月17日に当初発行価格10.00米ドル、豪ドル一年2回分配クラスは、2024年12月17日に当初発行価格10.00豪ドルで設定されました。
- (注2) 分配金再投資換算1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。以下同じです。
- (注3) 分配金再投資換算1口当たり純資産価格は、当初発行価格を起点として計算しています。
- (注4) ファンドにベンチマークは設定されていません。

#### 米ドル一年2回分配クラス



#### 豪ドル一年2回分配クラス



	運用開始日 (2024年12月17日) <sup>(注1)</sup> の1口当たり 純資産価格	第1期末の 1口当たり 純資産価格	第1期中の 1口当たり 分配金額	騰落率 (%)
米ドル一年2回分配クラス	10.00米ドル	10.46米ドル	0.26米ドル	7.22
豪ドル一年2回分配クラス	10.00豪ドル	10.42豪ドル	0.26豪ドル	6.82

## ■ 1口当たり純資産価格の主な変動要因

### <米ドル一年2回分配クラス>

#### 上昇要因

- ・保有する債券から利子収入を得たこと
- ・短中期ゾーンを中心に米国の金利が低下したこと
- ・米政府系住宅ローン担保証券が上昇したこと

#### 下落要因

- ・豪州の超長期ゾーンの金利が上昇したこと

### <豪ドル一年2回分配クラス>

#### 上昇要因

- ・保有する債券から利子収入を得たこと
- ・短中期ゾーンを中心に米国の金利が低下したこと
- ・米政府系住宅ローン担保証券が上昇したこと

#### 下落要因

- ・豪州の超長期ゾーンの金利が上昇したこと
- ・豪ドルの対米ドルヘッジコストがマイナスに寄与したこと

【費用の明細】

項目	項目の概要	
管理報酬*	年率0.55%	投資顧問、管理事務および第三者への業務の提供および提供の手配
代行協会員報酬	年率0.05%	受益証券に関する目論見書の配布、受益証券1口当たり純資産価格の公表ならびに日本の法令および日本証券業協会規則により作成を要する運用報告書等の文書の配布等の業務
販売報酬	年率0.40%	受益証券の販売業務、購入・買戻しの取扱業務、運用報告書の交付等購入後の情報提供業務およびこれらに付随する業務
その他の費用・手数料（当期）	0.02%	支払利息および設立費用等

（注）各報酬については、目論見書に定められている料率および金額を記しています。「その他の費用・手数料（当期）」には、運用状況等により変動するものや実費となるものが含まれます。便宜上、当期のその他の費用の金額をファンドの当期末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

\* 管理会社はファンドが必要とする一定の第三者により提供されたサービスに費用を負担します。これには、受託会社の報酬、管理事務代行報酬、保管報酬および名義書換事務報酬が含まれます。

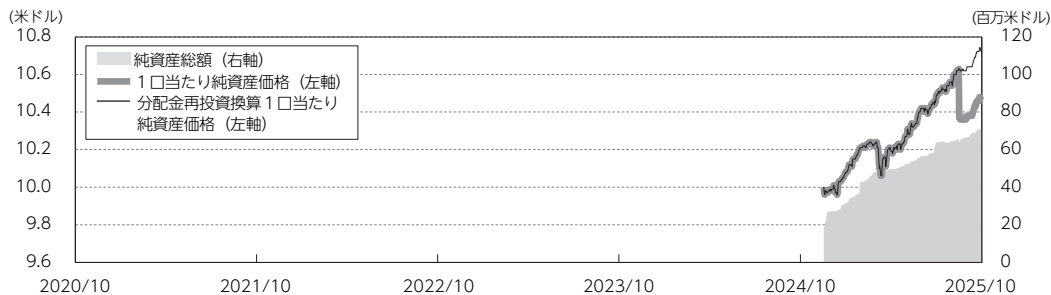
## 【最近5年間の1口当たり純資産価格等の推移について】

(注1) 米ドル一年2回分配クラスは、2024年12月17日に当初発行価格10.00米ドル、豪ドル一年2回分配クラスは、2024年12月17日に当初発行価格10.00豪ドルで設定されました。

(注2) 分配金再投資換算1口当たり純資産価格は、当初発行価格を起点として計算しています。

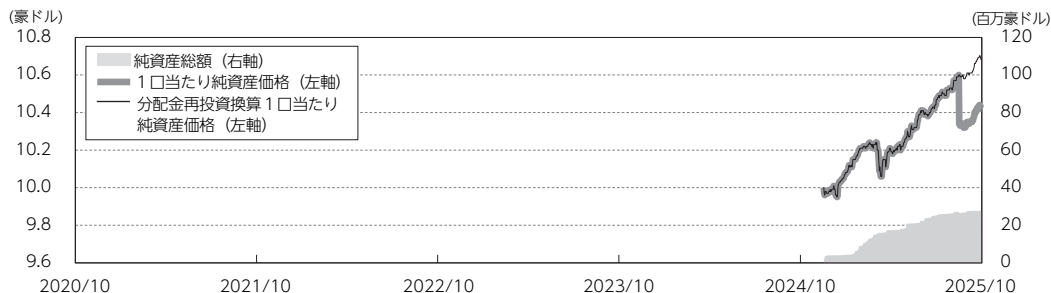
(注3) ファンドにベンチマークおよび参考指数は設定されていません。

### 米ドル一年2回分配クラス



	運用開始日 (2024年12月17日) (注1)	第1期末 (2025年10月31日)
1口当たり純資産価格 (米ドル)	10.00	10.46
1口当たり分配金額 (米ドル)	-	0.26
騰落率 (%)	-	7.22
純資産総額 (百万米ドル)	18.6	70.7

### 豪ドル一年2回分配クラス



	運用開始日 (2024年12月17日) (注1)	第1期末 (2025年10月31日)
1口当たり純資産価格 (豪ドル)	10.00	10.42
1口当たり分配金額 (豪ドル)	-	0.26
騰落率 (%)	-	6.82
純資産総額 (百万豪ドル)	1.9	28.4

## 【投資環境について】

### 債券市場

当期の米国債券市場は上昇しました。期の前半は、インフレ率の伸びが鈍化したことや、米トランプ政権による関税政策を背景に景気減速懸念が高まったことなどから、米国債券市場は上昇しました。期の後半においても、米中貿易摩擦の激化や、FRB（米連邦準備制度理事会）による利下げ再開などを背景に上昇し、期を通じてみると、米国債券市場は上昇しました。

## 【ポートフォリオについて】

当ファンドは、ポートフォリオ全体の金利リスク（デュレーション）を0～3年以内に抑制しつつ、市場環境に応じて機動的に調整しています。米国については、相対的に高いインカムを獲得が期待できることに加え、リスクオフ時には金利低下に伴う債券価格の上昇を通じて投資元本の保全の役割が期待されることから、一定程度の金利リスクの取得を継続しています。また、追加利上げの可能性などから日本の金利リスクを売り持ちとしています。

債券種別については、守りの資産では米政府系住宅ローン担保証券など相対的に底堅い値動きが期待できる債券を中心に組み入れ、ポートフォリオの安定性を維持しています。一方、攻めの資産としては住宅ローンの返済継続により高い健全性を維持している米非政府系住宅ローン担保証券や、全般的に慎重なスタンスとしている社債セクターの中でも、資本の積極的な積み増しにより健全化が進む金融債を中心に選択的に組み入れを行っています。

## 【分配金について】

当期（2024年12月17日～2025年10月末日）の1口当たり分配金額（税引き前）は以下の表のとおりです。なお、以下の表の「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」は、当該分配落日における1口当たり分配金額と比較する目的で、便宜上算出しているものです。

### 米ドル一年2回分配クラス

分配落日	1口当たり純資産価格	1口当たり分配金 (対1口当たり純資産価格比率 <sup>(注1)</sup> )	分配金を含む1口当たり 純資産価格の変動額 <sup>(注2)</sup>
2025年9月16日	10.37米ドル	0.26米ドル (2.45%)	0.63米ドル

### 豪ドル一年2回分配クラス

分配落日	1口当たり純資産価格	1口当たり分配金 (対1口当たり純資産価格比率)	分配金を含む1口当たり 純資産価格の変動額
2025年9月16日	10.34豪ドル	0.26豪ドル (2.45%)	0.60豪ドル

(注1) 「対1口当たり純資産価格比率」とは、以下の計算式により算出される値であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。

対1口当たり純資産価格比率(%) =  $100 \times a / b$

a = 当該分配落日における1口当たり分配金額

b = 当該分配落日における1口当たり純資産価格 + 当該分配落日における1口当たり分配金額

(注2) 「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」とは、以下の計算式により算出されます。

分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額 =  $b - c$

b = 当該分配落日における1口当たり純資産価格 + 当該分配落日における1口当たり分配金額

c = 当該分配落日の直前の分配落日における1口当たり純資産価格

ただし、初回分配落日の場合は、c = 当初発行価格（米ドル一年2回分配クラス10.00米ドル、豪ドル一年2回分配クラス10.00豪ドル）

(注3) 米ドル一年2回分配クラスおよび豪ドル一年2回分配クラスの初回分配落日は2025年9月16日でした。

## 《今後の運用方針》

2026年の世界経済は、米国の関税政策が成長率の下押し要因となるものの、AI投資の加速や各国の財政出動などを背景に安定化し、底堅く推移する見通しです。インフレ率については地域差がみられるものの、徐々に多くの国で中央銀行の目標水準に近づくと予想されます。インフレの緩やかな低下に伴い、金融政策は中立的または緩和的な方向へと進む可能性が高いとみています。米国については、関税政策の影響により成長の減速および労働市場の軟化が見込まれるものの、財政刺激策に加え、継続的なAI投資や資産効果の改善が下支えとなり、2026年の成長率は2%程度で維持されると予想しています。インフレ率は、短期的にはエネルギー価格の上昇や建設需要の拡大などを背景に上振れリスクがある一方、関税の影響が薄れることで緩やかに低下する見通しです。金融政策は、新FRB議長の下で年後半に1~2回の利下げを見込み、2026年末時点の政策金利は3%近辺と予想しています。ユーロ圏では、防衛費やインフラ投資などの財政出動が一部の国で進む一方、財政余力が限られる国も多く、成長は鈍化すると見込まれます。インフレ率は中央銀行の目標水準に近づいており、金融緩和が継続される見通しであるものの、政策金利は既に中立水準に近く、利下げ幅は小幅にとどまると予想しています。かかる環境下、PIMCO短期インカム戦略としては、世界中の債券に分散しながら質・流動性・弁済順位の高さに焦点を当てることで、魅力的な水準のインカム収入を獲得しつつ、中長期的に債券価格の上昇によるキャピタル収入も目指していきます。質の良い高利回り資産を中心とする「攻め」の資産と、リスクオフ時にポートフォリオを安定化させる「守り」の資産のバランスを重視し、「良質なインカム」を着実に積み上げることで、引き続き元本の保全と安定的なインカムの提供を目指していきます。

## 《お知らせ》

該当事項はありません。

## 《ファンドの概要》

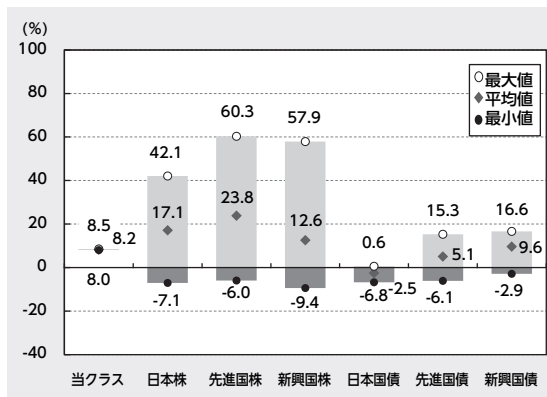
ファンド形態	バミューダ籍／オープン・エンド契約型外国投資信託
信託期間	ファンドは、有価証券報告書「ファンドの解散」に記載する一定の状況下で早期に終了しない限り、信託証書の日付（2003年12月1日）から100年間継続する予定です。なお、ファンドの運用開始日は2024年12月17日です。
運用方針	世界（新興国を含みます。以下同じ。）の幅広い種類の公社債等およびそれらの派生商品等を主要投資対象とし、慎重な投資運用と合致させながら魅力的な収益を追求することおよび二次的にキャピタルゲインの獲得を目指します。
主要投資対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファンドは、世界の幅広い種類の公社債等（国債、政府関連債、ハイ・イールド債券、バンクローン等）およびそれらの派生商品等に投資を行います。</li> <li>・ファンドは、投資適格未満の公社債等にも投資を行います。</li> </ul>
ファンドの運用方法	<p>ポートフォリオの構築においては金利リスクと信用リスクに配慮しつつ、市場環境に合わせた機動的な運用を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートフォリオの平均デュレーションは、原則として0～3年の範囲内で調整します。</li> <li>・ハイ・イールド証券への投資比率は総資産の30%以内とします。ただし、資産担保証券およびモーゲージ証券についてはこの限りではありません。</li> </ul> <p>ファンドの米ドル一年2回分配クラスおよび豪ドル一年2回分配クラスの2クラスの募集が行われます。各クラスは、半年ごと（原則として3月と9月の15日）に分配を行います*。</p> <p>米ドル一年2回分配クラスは、原則として、為替エクスポージャーの管理を行いません。</p> <p>豪ドル一年2回分配クラスは、通常、95%から105%の範囲で対豪ドルでの為替ヘッジを行うことを目指しています。</p> <p>* 管理会社の裁量により分配が行われない場合があります。</p>
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常、総資産の65%以上を世界の幅広い種類の公社債等およびそれらの派生商品等に投資します。</li> <li>・ハイ・イールド証券への投資比率は総資産の30%以内とします。ただし、資産担保証券およびモーゲージ証券についてはこの限りではありません。</li> <li>・ポートフォリオの平均デュレーション*は、原則として0～3年の範囲で調整します。</li> </ul> <p>* デュレーションとは、金利変動に対する証券価格の感応度を決定するために使用される指標です。この値が大きいくほど、その証券の金利変動に対する債券価格の感応度が大きくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米ドル以外の通貨エクスポージャーを総資産の10%以内で持つことができます。</li> <li>・新興国の発行体が発行する銘柄への投資は総資産の15%以内とします。</li> <li>・ファンドの純資産総額の10%を超えて、借入を行うものではありません。</li> <li>・ファンドは、私募株式、非上場株式または不動産等、流動性に欠ける資産に対しその純資産の15%を超えて投資を行いません。</li> <li>・投資対象の購入、投資および追加の結果、ファンドの資産額の50%を超えて、日本の金融商品取引法第2条第1項に規定される「有価証券」の定義に該当しない資産を構成する場合、かかる投資対象の購入、投資および追加を行いません。</li> </ul>
分配方針	各クラスは、半年ごと（原則として3月と9月の15日）に分配の宣言または支払いを行う見込みです。各クラスからの分配は、管理会社の権限のみに基づいて受益者に対して宣言され、分配されます。かかる権限は、管理会社の裁量により行使されないことがあります。

## 《参考情報》

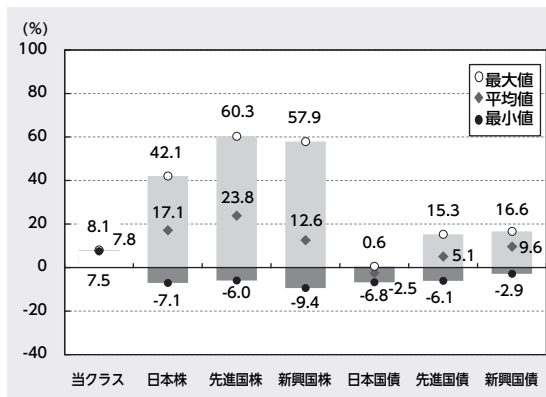
### 【ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較】

2021年2月～2026年1月の5年間ににおける年間騰落率（各月末時点）（ただし、米ドル一年2回分配クラスおよび豪ドル一年2回分配クラスは2024年12月17日に運用を開始しております。）の平均の振れ幅を、ファンドと他の代表的な資産クラス（円ベース）との間で比較したものです。このグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

#### 米ドル一年2回分配クラス



#### 豪ドル一年2回分配クラス



出所：管理会社、Bloomberg L.P.および指数提供会社のデータを基に森・濱田松本法律事務所外国法共同事業が作成

#### （ご注意）

- ・分配金再投資1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したものです。
- ・ファンドの年間騰落率（各月末時点）は、各月末とその1年前における分配金再投資1口当たり純資産価格を対比して、その騰落率を算出したものです。（月末が営業日でない場合は直前の営業日を月末とみなします。）
- ・ファンドの年間騰落率は、ファンドの参照通貨建てで計算されており、円貨に為替換算されておりません。したがって、円貨に為替換算した場合、上記とは異なる騰落率となります。
- ・代表的な資産クラスの年間騰落率（各月末時点）は、各月末とその1年前における下記の指数の値を対比して、その騰落率を算出したものです。（月末が休日の場合は直前の営業日を月末とみなします。）
- ・ファンドと他の代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較は、上記の5年間の各月末時点における年間騰落率を用いて、それらの平均・最大・最小をグラフにして比較したものです。
- ・ファンドは、代表的な資産クラスの全てに投資するものではありません。
- ・代表的な資産クラスを表す指数

日本株……………TOPIX（配当込み）  
 先進国株……………FTSE先進国株価指数（除く日本、円ベース）  
 新興国株……………S&P新興国総合指数  
 日本国債……………ブルームバークE1年超日本国債指数  
 先進国債……………FTSE世界国債指数（除く日本、円ベース）  
 新興国債……………FTSE新興国市場国債指数（円ベース）

（注）S&P新興国総合指数は、Bloomberg L.P.で円換算しています。

TOPIX (東証株価指数) の指数値およびTOPIXに係る標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社 (以下「JPX」といいます。) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIXに係る標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIXの指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。

FTSE先進国株価指数 (除く日本、円ベース)、FTSE世界国債指数 (除く日本、円ベース) およびFTSE新興国市場国債指数 (円ベース) に関するすべての権利は、London Stock Exchange Group plcまたはそのいずれかのグループ企業に帰属します。各指数は、FTSE International Limited、FTSE Fixed Income LLCまたはそれらの関連会社等によって計算されています。London Stock Exchange Group plcおよびそのグループ企業は、指数の使用、依存または誤謬から生じるいかなる負債について、何人に対しても一切の責任を負いません。

# 《ファンドデータ》

【ファンドの組入資産の内容】

(第1期末現在)

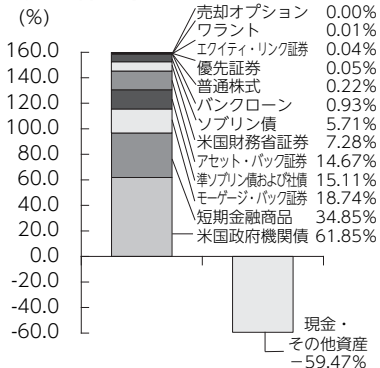
## ●組入上位資産

(組入銘柄数：444銘柄)

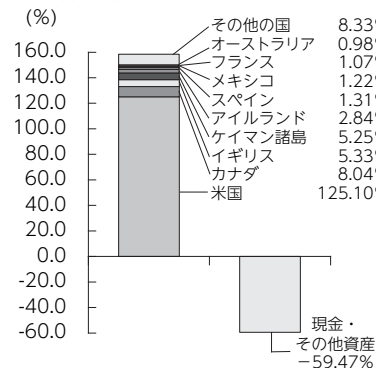
銘柄	組入比率 (%)
Fannie Mae, TBA	18.58
JPMorgan Chase & Co.	12.15
JPMorgan Chase & Co.	12.03
Fannie Mae, TBA	11.66
Royal Bank of Canada	7.85
Fannie Mae, TBA	5.26
Fannie Mae, TBA	4.50
Goldman Sachs & Co.	2.17
Ginnie Mae, TBA	2.04
U.S. Treasury Bonds	1.66

(注) 組入比率はファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。以下棒グラフも同様です。

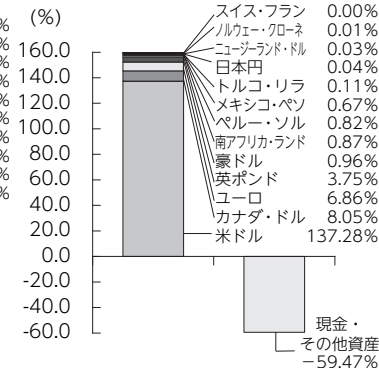
## ●資産別配分



## ●国別配分



## ●通貨別配分



(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

【純資産等】

項 目	第1期末	
	純資産総額	米ドル一年2回 分配クラス
豪ドル一年2回 分配クラス		28.4百万豪ドル
発行済口数	米ドル一年2回 分配クラス	6,760,626.25口
	豪ドル一年2回 分配クラス	2,721,865.56口
1口当たり純資産価格	米ドル一年2回 分配クラス	10.46米ドル
	豪ドル一年2回 分配クラス	10.42豪ドル

	第1期		
	販売口数	買戻口数	発行済口数
米ドル一年2回	6,970,319.95	209,693.70	6,760,626.25
分配クラス	(6,970,319.95)	(209,693.70)	(6,760,626.25)
豪ドル一年2回	2,769,971.44	48,105.88	2,721,865.56
分配クラス	(2,769,971.44)	(48,105.88)	(2,721,865.56)

(注) ( )の数是本邦内における販売・買戻しおよび発行済口数です。